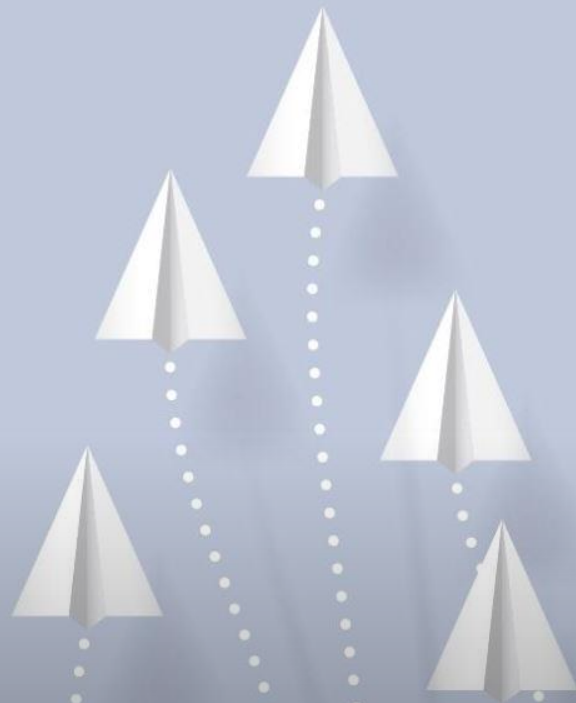


日本FP学会大会 研究発表用資料  
2020年9月5日



# 金融コンピテンシー論の射程

千葉商科大学人間社会学部教授  
伊藤 宏一

# 論点

- 国際社会での金融能力論の基軸は、金融コンピテンシーとなっている。我が国の金融能力論も OECD/INFEなどによる金融コンピテンシーを取り入れるべきである。
- 投資教育についても同様であり、現時点での最新のプログラムは『投資者のための金融リテラシーに関するコア・コンピテンシー・フレームワーク』(2019.9 OECD/IOSCO)である。ここでもコア・コンピテンシーは、意識と知識、スキルと行動、態度・自信・動機の3点から成り立っている。この枠組みの中で行動ファイナンスのトピックスも位置付けられている。
- 金融コンピテンシーという視線から見ると、金融教育と同時に情報・テクノロジー、アドバイスも、人々の金融コンピテンシーを高める役割がある。従って国民の金融能力水準の評価には金融教育、金融情報・テクノロジー、金融アドバイスの3点で評価すべきである。
- SDGsの教育に見合った金融教育の内容を確立していく必要がある。

# 非認知能力の問題

- 近年、教育学で注目されている人間の非認知能力(non-cognitive skills)は、IQや学力テスト、偏差値などのように点数や指標などで明確できるものではないが、子どもの将来や人生を豊かにする一連の肯定的な能力である。「非認知的(社会情緒的)能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する報告書」2017.3 国立教育政策研究所)
- ノーベル経済学賞を受賞した教育経済学のHeckman and Scheinkman が非認知能力の存在と効果を実証した。就学前(乳幼児や保育園、幼稚園の時期)に非認知能力を養成する教育を受けさせることで、子どもが大人になってから、安定した雇用や安定した所得、高い持ち家率など社会的能力に優位な差が生まれることが分かった。(40年間追跡調査)。すなわち非認知能力は、将来の経済力に資する。
- 新学習指導要領には、幼児教育から、非認知能力を育成することが盛り込まれている。
- 金融教育においても国際的には、非認知能力であるコンピテンシーを位置付けることが常識となっている。

## 金融におけるポジティブな非認知能力(伊藤 試案)

| 非認知能力の種類  | 金融の具体例                                            |
|-----------|---------------------------------------------------|
| 自己認識      | 金融行動に自己肯定感がある、                                    |
| 動機付け・意欲   | 人生100年を見据えて、資産形成が必要であることに動機付けられる。実際に資産形成を始める意欲がある |
| 持続力・忍耐力   | 短期的に市場が悪化しても長期運用を諦めない。長期のローン返済を着実にやっていける。         |
| 自制心       | 無駄遣いをしない・家計管理をコントロールする                            |
| メタ認識      | ライフプランとそれに基づくファイナンシャルプランを立て、現状の問題点を把握して課題に向かう     |
| 社会的能力     | 経済的に困難な人にクラウドファンディングを通じて寄付する。ESGを勧奨して投資する。        |
| 回復力・対応力   | 無駄遣いや大きな損をしてもめげない。間違った投資を反省できる。                   |
| クリエイティビティ | 直感力があり、工夫できる                                      |

※非認知能力の種類は、Heckman and Scheinkman による。

# 金融教育の新枠組みー〈金融リテラシー/コンピテンシー〉

- 2012.6 OECD/INFE 学校における金融教育のガイドラインー

「金融リテラシーには、学生が日常生活及び成人した時に、効果的で責任ある金融上の意思決定を行うために、発展させる必要がある様々なコンピテンシーを含んでいる。このコンピテンシーは、金融知識、金融理解、金融スキル、そして知識・スキルを効果的に使うことができる態度と行動をカバーしている。」

- 2012.8 金融教育のための国家戦略に関するハイレベル原則ー

『金融リテラシーは、「金融に関する健全な意思決定を行い、究極的には金融面での個人の幸福を達成するために必要な、金融に関する意識、知識、スキル、態度および行動の総体」』→金融リテラシーには、意識や態度などの非認知能力が含まれる。

- 2015 OECD「社会進歩のためのスキル」人のスキルを認知スキルと非認知スキルにわけ、前者は「知識、思考、経験を獲得する能力、知識に基づく解釈・推論の能力」、後者は「社会情緒的スキル」であり、「長期的目標の達成、他者との協働、感情を管理する能力の三つの側面に関する思考、感情、行動のパターン」とした。

## 〈金融リテラシー/コンピテンシー枠組み〉の経緯

- 2015OECD/INFE『若者の金融リテラシーに関するコア・コンピテンシー・フレームワーク』
- 2016OECD/INFE『成人の金融リテラシーに関するコア・コンピテンシー・フレームワーク』
- 2018OECD/INFE『中小零細企業のための金融リテラシーに関するコア・コンピテンシー・フレームワーク』
- 2019 OECD/IOSCO『投資家のための金融リテラシーにおけるコア・コンピテンシー・フレームワーク』
- コア・コンピテンシー—健全な金融判断の基礎を形成する主要な金融リテラシー能力
  - a. 意識・知識・理解
  - b. スキル・行動
  - c. 自信(Confidence)・動機(Motivation)・態度(Attitude)
- 投資に関するコア・コンピテンシー
  - a. 意識と知識—投資者が得た、一般的な投資商品に関する、手数料・機能・リスクなどの情報
  - b. スキルと行動—投資商品の選択にあたり、実際の投資収益率を評価するなど金融的Wellbeingにつながり得る行動を行う能力
  - c. 自信・態度・動機—十分な情報に基づいた意思決定と金融的Wellbeingをサポートする/妨げる心理的メカニズム

※INFE: International Network on Financial Education(OECD)

※IOSCO: International Organization of Securities Commissions

# 投資

| A) 意識・知識・理解                                                | B) スキルと行動                               | C) 自信・動機・態度                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 土台となるコンピテンシー                                               |                                         |                                                                                                                                                                                   |
| 貯蓄と投資の違いを <b>知っている</b>                                     | 投資を検討する前に流動性貯金を作っておく                    | 投資することで特定の目標を達成できるかどうかを検討する <b>自信がある</b>                                                                                                                                          |
| 投資のいくつかの形は他よりも流動性が高いことを <b>意識している</b>                      |                                         |                                                                                                                                                                                   |
| 投資価値は増大したり減少することを <b>知っている</b>                             |                                         |                                                                                                                                                                                   |
| コア・コンピテンシー                                                 |                                         |                                                                                                                                                                                   |
| リスクのレベルや潜在的な収益を含む様々な投資オプションの特性を <b>知っている</b> [又は簡単に見つけられる] | 潜在的な投資の調査 リスク許容度、目標、および時間範囲と一致する意思決定を行う | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミットする前に潜在的な投資の研究を行う<b>自信がある</b></li> <li>・一人で又は助言を得て、投資の意思決定することに<b>自信がある</b></li> <li>・あまりにも良さそうに見える投資の勧めには疑問を抱く<b>自信がある</b></li> </ul> |
| 多様な投資ポートフォリオを保有することの利点を <b>理解している</b>                      | 多様化したポートフォリオを作成する                       |                                                                                                                                                                                   |
| 投資する際に全体的な資産配分を考慮することが重要である理由を <b>知っている</b>                | 投資を定期的に <b>モニタリング</b> し、必要に応じて調整する      |                                                                                                                                                                                   |
| 情報に基づかない投資決定を行うことによる追加のリスクを <b>意識している</b>                  |                                         |                                                                                                                                                                                   |
| リスク許容度、投資期間、投資目標などの基本的な投資概念を <b>理解している</b>                 |                                         |                                                                                                                                                                                   |
| 投資ポートフォリオを作成する方法、個別アドバイスを求める方法について <b>ある程度の知識がある</b>       |                                         |                                                                                                                                                                                   |

2016OECD/INFE『成人の金融リテラシーに関するコア・コンピテンシー・フレームワーク』(拙訳)

## 投資(続き)

| A) 意識・知識・理解                                                                                                                                                                                                                                                              | B) スキルと行動                                            | C) 自信・動機・態度                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| コア・コンピテンシー(続き)                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                      |                                                                                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・投資商品やサービスに対してサービス・フィーや金融機関からの販売手数料(コミッション)その他の費用が発生する可能性があることを<b>知っている</b></li> <li>・インフレ、金利、為替レートの変化が長期計画にどのような影響を与えるかを<b>知っている</b></li> <li>・投資価値の比例的増減を計算する方法を<b>知っている</b></li> </ul> <p>潜在的な（未実現）損失と実現損失の差を<b>理解している</b></p> | 投資をモニタリングし管理する際に、関連する計算を行う                           |                                                                                          |
| 年金、生命保険、基金、ユニットトラストなどの投資商品は、様々な投資を組み合わせで設計できることを <b>知っている</b>                                                                                                                                                                                                            |                                                      | 適格性に関する財務的および倫理的な決定を下すために、年金、生命保険、養老またはユニットトラストなどの保有する投資商品に組み込まれた投資の範囲を調査する <b>意欲がある</b> |
| <p>同じ株式又はファンドが異なる日に異なる購入価格を持っていることを<b>理解している</b></p> <p>株式市場全体の報告された変化に関係なく、個々の株価が増減する可能性があることを<b>意識している</b></p>                                                                                                                                                         | 意思決定する前に、出口コストを含む投資コストを <b>考慮する</b>                  |                                                                                          |
| 金などの物質財への投資の価値は、さまざまな要因の結果として増加または減少する可能性があることを <b>意識している</b>                                                                                                                                                                                                            | 投資として保有されている商品の価格の変化を <b>監視する</b>                    |                                                                                          |
| 感情などの人間の特性が予期しない方法で投資決定に影響を与える可能性があることを <b>意識している</b>                                                                                                                                                                                                                    | 情報に基づいた意思決定を行い、投資の意思決定時に感情的な反応を制御するための <b>措置を講じる</b> |                                                                                          |

# 投資家のための金融リテラシーにおけるコア・コンピテンシー枠組み

|                                                                                                                                                          | 意識・知識                                                                                                                                                                                                                                                       | スキル・行動                                                                                                                                                                                                                                            | 態度・自信・動機                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 基本的な投資原則と概念投資詐欺や詐欺を回避する方法とその方法を学ぶ意欲がある。</p> <p>・投資が不正である可能性があるかどうかを疑う自信。</p> <p>・明らかになった場合、投資詐欺または詐欺が行われたことを認める自信がある。・「低リスク、高収益」を認識する 投資は存在しない。</p> | <p>・貯蓄と投資の違いを説明できる</p> <p>・投資と投機の違いを説明できる</p> <p>・リスクと潜在的なリターンの関係を記述できる</p> <p>・長期ファイナンシャルプランと長期投資におけるインフレーションのインパクトを説明できる。</p> <p>・富の蓄積に対する配合の効果の説明できる。</p> <p>・多様化する投資の利点を説明できる。</p> <p>・投資のためにお金を借りる（または活用する）リスクを説明できる。</p> <p>・投資時のコスト平均化の効果の説明できる。</p> | <p>・投資を検討する前に、流動性のある緊急資金を保持しておく。</p> <p>・個人のリスク許容レベルと投資目標に合った投資を選択する。</p> <p>・分散投資</p> <p>・機能、料金、およびリスクについて個人が説明できる投資を検討する。</p> <p>・各投資の投資対象を設定する。</p> <p>・影響する要因が変化した場合、個人のリスク許容度レベルを再評価する。</p> <p>・長期的なファイナンシャル・ゴールを達成するために、規律をもって定期的に投資する。</p> | <p>・投資価値が増減する可能性があることを認識する。</p> <p>・情報に基づいていない投資決定を行うと、より多くのリスクが伴うことを認識する。</p> <p>・投機的利益のためではなく、ファイナンシャル・プランニングのプロセスの一環として投資を検討する。</p> |

2019 OECD/IOSCO『投資家のための金融リテラシーにおけるコア・コンピテンシー・フレームワーク』（拙訳）

|               | 意識・知識                                                                                                                                                                                                      | スキル・行動                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 態度・自信・動機                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 投資家の権利と責任   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・投資家の権利と責任、苦情/救済手続きを含む利用可能な投資家保護措置の範囲を説明する。</li> <li>・不正確な、誤解を招く、又は不十分な情報を金融サービスプロバイダー/仲介者に提供することの意味を識別する。</li> <li>・金融サービスプロバイダー/仲介者と文書に署名することの意味を識別する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・購入する前に、投資商品の販売文書を読む。</li> <li>・投資が規制され登録されているかどうか、および規制/登録されている方法を金融規制当局に確認する。</li> <li>・金融サービスプロバイダー/仲介業者が、サービスを提供するために認可/規制/登録されているかどうかを金融規制当局に確認する。</li> <li>・紛争が発生した場合、投資又はサービスに関する苦情を適切な関係者に提出する。</li> <li>・文書に署名する前に、文書のすべての詳細を明確にし、コピーを保持する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・投資家の権利を行使することに自信がある。</li> <li>・投資家の権利と責任を実行することで、投資失敗の可能性が減ることを認識している。</li> <li>・文書内のすべての情報（小さな活字を含む）が実質的な意味を持つ可能性があることを認識する。</li> <li>・正確かつ最新の関連情報を金融サービスプロバイダー/仲介業者に提供することが個人の最大の利益であることを認識する。</li> <li>・投資家保護がほとんどなく規制されていない投資はリスクが高いことを認識する。</li> <li>・個人が下した投資決定の金融上の結果に対する責任を受け入れる。</li> </ul> |
| 6投資に関わる行動バイアス | <ul style="list-style-type: none"> <li>・投資家はバイアスのために常に合理的な決定を下すとは限らないことに注意する。</li> <li>・投資判断に影響を与える可能性のある一般的な感情的・認知的バイアスの例を提供できる。</li> </ul>                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・投資判断の際に、感情的・認知的バイアスの兆候を見つける。</li> <li>・衝動的な投資判断を避ける。</li> <li>・事実情報に基づいて投資決定を行う。</li> </ul>                                                                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情などの人間の特性は、予想しない方法で投資判断に影響を与える可能性があることを認識する。</li> <li>・投資の規律は行動バイアスを最小限に抑えることを認識する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                      |

行動バイアスは、ここに位置付けられている。

2019 OECD/IOSCO『投資家のための金融リテラシーにおけるコア・コンピテンシー・フレームワーク』（拙訳）

# 我が国における金融教育の基礎概念—金融リテラシー

- 生活スキルとしての金融リテラシー—「社会人として経済的に自立し、良い暮らしをおくっていくためには、計画性のない支出は控え、収支の改善を目指す家計管理や、死亡・疾病・火災等の不測の事態や教育・住宅取得・老後の生活等に備えた生活設計を習慣化するとともに、それぞれの生活設計に合わせて金融商品を適切に利用選択する知識・判断力を身に付けること…。このような習慣・知識・判断力をしっかり持って生活する力(生活スキルとしての金融リテラシー)の向上により。リスク・リターンをはじめとする様々な金融商品の特性を理解し、計画的な貯蓄と安定的な資産形成につながる運用を行うとともに、必要に応じ、保険や借入を適切に活用できるようになると考えられる。」(『金融経済教育研究会報告書』2013 金融庁)
- ここでは金融リテラシーは、金融に関する習慣・知識・判断力に関しており、その金融分野が、家計管理・生活設計・金融商品に関すること、であることが示されている。
- しかし金融リテラシーの能力論としてのコア・コンピテンシー論はなく、内容的には知識・スキルは出てくるが、とりわけ「自信・態度・動機」という非認知能力としてのコア・コンピテンシーについては認識されていない。
- またこの「金融リテラシー」は、専ら「単独で、マネーの個人的な仕様と管理及び個人の生活での金融的な意思決定に関する」ものにフォーカスされており、「個人の金融的意思決定とより広い社会や環境との相互作用を考慮する広い視野」(OECD/INFE「学校における金融教育に関するガイドライン」最終的ドラフト2011)を含むものとしては考えられなかった。

## 2.金融環境の3要素ー教育・情報・アドバイス

- 金融リテラシーを身に付けるためには、学校教育だけでなく、デジタルツールによる金融情報取得や家計管理等、そして専門家によるアドバイスへのアクセス、の3つが、同等に重要である。
- 学校教育における金融教育は、我が国では「金融」という科目がないため、依然として限られている。既に社会人である場合は、学校教育以外での中立的な教育の場は少ない。中立的な金融情報へのアクセス、家計簿アプリによる家計管理、顧客本位のFPによるアドバイスは、生活者の金融能力を高める機能がある。
- アドバイザーについては、顧客のライフプランに基くファイナンシャルプランを作成して、パーソナルファイナンスに関する包括的なアドバイスができ、その上で投資や保険などの個別分野について法的な資格を有してアドバイスし、顧客のファイナンシャルプランへの全体最適を志向する能力と立場にあるFPが最適である。
- 従って生活者の金融能力評価については、教育・情報へのアクセス・アドバイザーの利用という3つの領域のエビデンスを集めるべきである。

銀行の支店が少ないインドでスマホが浸透し、多くの人々が、スマホにより、金融決済や資金移動ができるようになったり、我が国で家計簿アプリが1000万人以上に浸透し、家計管理ができるようになり、節約が進み投資する人が増えている、ということは、フィンテックが生活者の金融リテラシーに戻らす肯定的側面と言える。

# 金融環境 3 教育・情報・アドバイス

| A)意識・知識・理解                                                                                                                                                                                                      | B)スキルと行動                                                                                                                                                         | C)自信・動機・態度                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 土台となるコンピテンシー                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・金融商品とサービスに関する情報には様々なソースがあることに<b>気づいている</b></li> <li>・金融問題に関する教育やアドバイスに(通常)アクセスできることに<b>気づいている</b></li> <li>・教育・情報・アドバイスの一部の情報源は、公平ではない可能性があることに<b>気づいている</b></li> </ul> | 情報に通じた消費者になるための <b>措置を講じている</b>                                                                                                                                  | 教育、情報、アドバイスの信頼できる情報源を認識する自分の能力に <b>自信がある</b>                                                                                                                                            |
| コア・コンピテンシー                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                         |
| 個人の金融リテラシーと金融的ウェルビーイングを向上させることができることを <b>知っている</b>                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・金融リテラシーと金融的ウェルビーイングのすべての側面を改善する生涯学習の習慣を<b>開発する</b></li> <li>・個人的な戦略を<b>開発し</b>、経済的ウェルビーイングを妨げる特性を最小限にするツールを使う</li> </ul> | 金融問題に関する重要な事実と情報を学んで思い起こすように <b>動機づける</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金融問題をリサーチし、提供される情報を批判的に検証する<b>自信がある</b></li> <li>・自分の子どもにお金の問題について教育する[関連する場合]<b>自信がある</b></li> </ul> |
| 金融問題に関する情報の入手先を <b>知っている</b><br>独立したファイナンシャル・アドバイスの役割とそのアドバイスがいつ役立つかを <b>意識している</b><br>そのアドバイザーは、それぞれ異なる意見を持っていることを <b>意識している</b>                                                                               | 金融上の意思決定を行う際に情報やアドバイスを提供するように設計されたツールを <b>使用する</b> 。<br>必要に応じて、金融情報とアドバイスの独立したソースを <b>使用する</b>                                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前に学んだレッスンを新しい金融上の決定を行う際に適用する<b>自信がある</b></li> <li>・情報を探すか、必要に応じて、独立したファイナンシャル・アドバイザーを選択する<b>自信がある</b></li> </ul>                               |
| 幅広い信頼できる個人と金融問題について話すことの利点を <b>意識している</b>                                                                                                                                                                       | お金の問題について信頼できる家族や友人とオープンで正直な方法で <b>話し合う</b><br>専門家と話をするときに関連するお金の問題について <b>議論する</b>                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・お金の問題について他の人と話すことに<b>自信がある</b></li> <li>・様々な示唆や推奨事項から結論を引き出す<b>自信がある</b></li> </ul>                                                             |

2016OECD/INFE『成人の金融リテラシーに関するコア・コンピテンシー・フレームワーク』(拙訳)

### 3. OECD Education2030の基本認識とコンピテンシー論

- Education2030(2018)

「2018年に学校に入学する子どもたちは、資源が無限だとか、資源は利用されるためにあるといった考えを捨てることが求められる。それよりも、全人類の繁栄や持続可能性、ウェルビーイング(良い状態＝幸福)に価値を置くことが求められるだろう。」

「私たちには、全ての学習者が、一人の人間として全人的に成長し、その潜在能力を引き出し、**個人**、**コミュニティ**、そして**地球のウェルビーイング**の上に築かれる、私たちの未来の形成に携わっていくことができるように支えていく責務がある」「彼らは、分断よりも協働を、短期的な利益よりも持続可能性を大切に」する。

- 教育には、包摂的で持続可能な未来を作り上げていくことに貢献し、またそこから恩恵を受けることができるような知識やスキル、態度と価値を育成していくという極めて重要な役割がある。
- コンピテンシーの概念は、単なる知識とスキル獲得以上のものであり、複雑な要求に応えるために知識やスキル、態度と価値を動員することを含む。

幅広い知識と専門的知識、学問分野を超えて考え、「点をつなぐ」知識、デザイン思考やシステム思考のような手続き的知識。

知識を未知の状況や変転する状況への適用のための、認知スキル、メタ認知スキル、批判的思考力、創造的思考力、社会的・情意的スキル(共感、自己効力感、協働性)、実用的・身体的スキル(ICT機器の利用)を含めた幅広いスキル。

幅広い知識とスキルの活用は、態度と価値(意欲、信頼、多様性や美徳の尊重)によって媒介される。人々の生活は、異なる文化展望や個人的特性に油性する価値や態度の多様性によって豊かなものとなるが、他方、決して妥協することの許されない人間的価値＝生命や人間の尊厳の尊重、環境の尊重、も存在する。

# コンピテンスのホリスティック・モデル

コンピテンシー(DeSeCo):ある特定の文脈における複雑な要求(demands)に対し、認知的・非認知的側面を含む心理—社会的な前提条件の結集を通じて、うまく対応する能力

要求志向のコンピテンス

例:投資する能力

コンピテンスの内的構造

投資に関連した

知識  
認知的スキル  
実践的スキル  
態度  
感情  
価値観と倫理  
動機付け

# OECD Education2030 6つのコンピテンシー

- DeSeCoコンピテンシー(2003)

- ①相互作用的に道具を用いる力
- ②異質な集団で交流する力
- ③自律的に行動する力

※DeSeCo—Definition and Selection of Key Competencies

→個人軸

- Education2030プロジェクト(2018)

「OECDがDeSeCoプロジェクトにおいて定義したキー・コンピテンシーに立脚して、Education2030プロジェクトでは、さらに3つのコンピテンシーの力テゴリーを、変革を起こす力のあるコンピテンシーとして特定した。」

- ①新たな価値を創造する力ー新たな思考方法・生活様式・ビジネスモデル・社会モデルなどのイノベーション
- ②責任ある行動をとる力ー①③の前提となる。倫理的に行動し、自己調整する力
- ③対立やジレンマを克服する力ー格差拡大の中で他者のニーズや欲望を理解し、利害を調整していく力

→社会・地球軸

- 我が国の「金融リテラシー」概念は、専ら「単独で、マネーの個人的な仕様と管理及び個人の生活での金融的な意思決定に関する」ものにフォーカスされており、「個人の金融的意思決定とより広い社会や環境との相互作用を考慮する広い視野」(OECD/INFE「学校における金融教育に関するガイドライン」最終的ドラフト2011)を含むものとしては考えられなかった。またOECD/INFEやIOSCOにおいても同様。
- →金融教育・投資教育におけるコンピテンシーに、こうした社会・地球軸のコンピテンシーの視点を導入することが必要ではないか。:クラウド・ファンディング、ソーシャル・インパクト・ポンド、休眠預金法、ESG投資など。